

# 特別寄稿

## 教育プロフェッショナルリズム

看護学科 田 林 暁 一

プロフェッショナルリズム、プロフェッション、またプロフェッショナルという言葉に耳にする事があるが、それぞれ意味深長な言葉で、なかなかうまい和訳はない。強いて訳すとプロフェッショナルリズムは職人かたぎ、専門的かたぎで、プロフェッションは専門的職業、またプロフェッショナルは専門的職業人であり、技術、生き方、人間性、そして伝承的な面から生まれてくるもので、一言で表すと「自分で仕事の質を落とさない」に通ずる言葉と思われる。従来、西欧社会では聖職者、弁護士、医師の3職種を指して用いられ、共通の側面として宗教、法律、また生命に関する重要な職種、公正性、また正統性の観点から、そして自律、また自己規制に関する自治能力を有する者と考えられてきた。

近年、プロフェッショナルリズムの考え方に変化が見られ、それと共にプロフェッショナルの範疇に教育者、経営者、技術者、保育士、管理栄養士等も含まれ、それを満たす要件として、専門的な一連の知識を有する物、自由裁量に基づいた実践と自己批判をする人、個人や社会に対して利他的に奉仕する者、専門的な知識やスキルを維持・拡大する責任がある人とされている。石村善助は現代のプロフェッションの条件として「学識に裏付けられ、それ自身一定の基礎理論を持った特殊な技能を、特殊な教育または訓練によって修得し、それに基づいて、不特定多数の市民の中から、任意に呈示された個々の依頼者の具体的な要求に応じて、具体的奉仕活動を行い、よって社会全体の利益のために尽くす職業」と定義している。

プロフェッショナルの類語としてスペシャリスト、またエキスパートがあるが、前者はジェネナリストとの対語であり、ある一つの職場に精通している人で、プロフェッショナルと知識、技術の習得形態の違いを表しており、いわゆる専門的職業人を指す語ではない。一方、後者はアマチュアとの対語であり、熟練者を指し、プロフェッショナルとは知識、技術の習得レベルの違いを表しており、この語も専門的職業人を指す語ではない。

上述の様に近年、プロフェッショナルの範囲が拡大されてきているが、スペシャリストと異なる専門的職業人としての責務が必要とされている。その責務は職種によって異なってくるが、教育プロフェッショナルリズムの責務として、下記10の責務を考えていく必要がある様に思われる。

1. プロフェッショナルとしての能力についての責務（個々の教師が生涯学習に励み、その能力・技能の維持を図る）
2. 教育観を持つ責務（学生観、社会観、人間観が含まれる）
3. 学生の秘密を守る責務
4. 学生との適切な関係を維持する責務
5. 教育の質を向上させる責務
6. 教育へのアクセスを向上させる責務
7. 学生に対して平等である責務
8. 自己使命の自覚の責務(学生との人格的な触れ合い)
9. 利益相反に適正に対処し信頼を維持する責務
10. 専門職に伴う責任を果たす責務（専門職能集団の信頼の維持と信頼を傷つけたものに対する懲戒の必要性）

教育プロフェッショナルリズムの獲得と実践に向けて幾許かの参考になればと考える。